

「余裕」を見つけてみませんか？

校長 高田 晶子

保護者・地域の皆様方には、ご健勝にて新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。令和4年新たな年がスタートいたしました。旧年中は元郷中学校のためにご支援賜りましたこと厚く御礼申し上げます。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。



さて、年内にかなり収束した新型コロナウイルス感染症も変異株とともに感染急拡大となり再び油断できない状況になりました。まずは、ご家族の健康管理が第一です。

- ①「飛沫感染」対策のマスクの着用
- ②「接触感染」対策の石鹸での手洗い
- ③「エアロゾル感染」対策の換気

について、学校、ご家庭、地域の皆様とともに、皆で取り組んでいきましょう。体調不良の場合は、免疫力が低下してしまいますので、回復されるまでしっかり休養をとみましょう。学校も来校の際は玄関にて対応させていただきます。ご理解いただきたいと思います。

新型コロナウイルス感染防止対策で、誰もが皆感じているのは、今までの生活が一変したということです。大人も子供も外出や行動規制について、一つ一つ考えながら慎重に生活するようになりました。不自由な生活がまだしばらくは続きます。

ところが、以前からやり残していたことがあり、時間に余裕ができたので取り掛かることができて良かった。という話も聞くようになりました。この余裕とは、大人と子供の捉え方に大きな違いがあるようです。「余裕がある」というのは、大人の場合、大抵はお金の事です。子供だったら勉強でしょうか。勉強はしているのに成績が良くなないと、気持ちの余裕を失くしていませんか。

解剖学者の養老孟氏は、著：「さかさま人間学」で“忙しい人は時間の余裕がない。きまじめな人や悲しんでいる人は、笑う余裕がない。病気の人には元気に動き回る余裕がない。そう考えてみると余裕って大事な言葉ですね。余りが裕かにある。君も探してみたら、きっとどこかに余裕はあるはずですよ。”と述べています。

私の余裕は、職場の雰囲気からもらうエネルギーです。一生懸命に働く先生方の勢いが私を後押しして、エネルギーをくれるからだと思います。もう一つは、コロナのお陰でと言ってよいのか分かりませんが、時間の余裕です。時間に追われて生活していたのが、「この事に時間を使おう」と自分のために使えるようになりました。

皆さんの余裕がどこにあるのか楽しみです。是非皆さんも余裕を見つけてみてください。